

LemonTree.**Connect**
codebeamer

User manual

by Sparx Systems Japan

Enterprise Architect ・ Codebeamer 連携ツール

LemonTree.Connect codebeamer ユーザーマニュアル

(2025/06/13 更新)

内容

1. はじめに.....	3
2. システム要件.....	3
3. インストール.....	3
4. ライセンスの設定.....	4
4.1. ライセンス画面の起動.....	4
4.2. ライセンスの設定.....	4
4.2.1. 評価ライセンス.....	4
4.2.2. フローティングライセンス.....	5
4.3. HostId の取得・変更（製品版ライセンス）.....	6
4.3.1. HostId の取得.....	6
4.3.2. HostId の変更.....	6
5. ご利用いただく前に.....	7
6. サンプルプロジェクトの利用.....	8
6.1. Codebeamer でサンプルプロジェクトを作成.....	9
6.2. LemonTree.Connect codebeamer の接続設定.....	10
6.3. インポート（Codebeamer → Enterprise Architect）.....	11
6.4. エクスポート（Enterprise Architect → Codebeamer）.....	14
7. 機能紹介.....	17
7.1. エクスポートで要素の削除検知.....	17
7.2. 複数の接続をエクスポート.....	18
7.3. 要求配下のダイアグラムをエクスポート.....	18
8. FAQ.....	19
8.1. エクスポート対象となる要素あるいは接続の種類.....	19
8.2. エクスポートに時間がかかる.....	19
8.3. Enterprise Architect で他のアドインの表示が日本語から英語に変わる.....	19
8.4. Enterprise Architect のトレーサビリティマップアドインを使用できない.....	19

1. はじめに

- ✓ 本資料ではサンプルプロジェクトを利用する前提で機能説明をしています。
- ✓ 本資料は LemonTree.Connect codebeamer バージョン 2.7.0 を基に作成されています。
- ✓ LemonTree.Connect codebeamer はオーストリアの LieberLieber Software 社の製品です。
- ✓ 「LemonTree.Connect codebeamer」は「LemonTree」とは異なる製品です。
- ✓ LemonTree.Connect codebeamer と Enterprise Architect の以下のアドインを同時に利用する場合、以下のアドインの表示が日本語から英語になってしまう問題があります。
 - ✓ 拡張マトリックスアドイン
 - ✓ トレーサビリティマップアドイン
 - ✓ 利用されているダイアグラムアドイン

回避策につきましては下記フォーラムをご確認ください。

https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=8056

2. システム要件

下記ページをご覧ください。

<https://www.sparxsystems.jp/LemonTree/l tcb.htm#sysreq>

3. インストール

※Enterprise Architect がインストールされている必要があります。

LemonTree.Connect codebeamer のインストールを開始するには、Enterprise Architect が起動していないことを確認した上で、LemonTree.Connect.codebeamer.msi をダブルクリックしてください。

インストールが完了しましたら、次章に進んでください。

4. ライセンスの設定

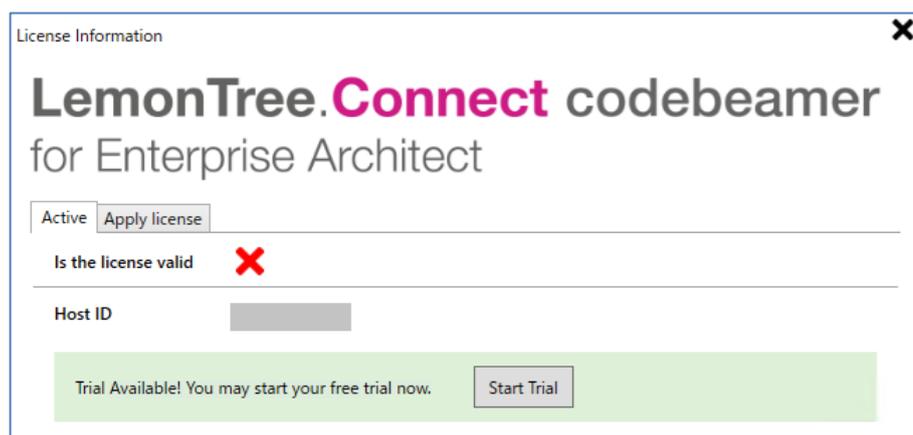
4.1. ライセンス画面の起動

Enterprise Architect を起動します。「アドイン・拡張」リボンより、アドインメニュー > LemonTree.Connect Codebeamer > License でライセンス画面を表示します。

4.2. ライセンスの設定

4.2.1. 評価ライセンス

下記画面で「Start Trial」をクリックします。



4.2.2. フローティングライセンス

※フローティングライセンスを設定するためには、事前にライセンスサーバを設定する必要があります。

詳細につきましては以下の LemonTree マニュアルの 7 章をご参照ください。

<https://www.sparxsystems.jp/bin/docs/LTManual.pdf>

下記の「Apply license」タブの画面で赤枠に「ポート番号@サーバ名」を入力し、「Test」をクリックします。



接続確認が ok であれば、「Apply」をクリックしてライセンス設定を完了します。

以下、注意事項です。

- ✓ フローティングライセンス取得・解放のタイミング
codebeamer と連携しているモデルを Enterprise Architect で開いたときにライセンスを取得し、当該モデルを閉じたときにライセンスを返却します。

- ✓ 最低利用時間 30 分
ライセンスには「最低利用時間」として 30 分が設定されています。

たとえば、ライセンスを取得後、20 分利用してライセンスを返却した場合、「最低利用時間」の 30 分が経過するまでは、そのライセンスを別の人が利用することはできません。

ライセンスを取得後、30 分以上利用してライセンスを返却した場合、そのライセンスはすぐに別の人が利用できます。

4.3. HostId の取得・変更（製品版ライセンス）

ここでは製品版ライセンスの入手に必要なライセンスサーバの HostId の取得方法などを説明します。

4.3.1. HostId の取得

HostId の取得方法につきましては、以下の LemonTree マニュアルの 4.3.2 章をご覧ください。

<https://www.sparxsystems.jp/bin/docs/LTManual.pdf>

※「LemonTree」と「LemonTree.Connect codebeamer」は異なる製品としてお読みください。

4.3.2. HostId の変更

利用するライセンスサーバを変更したい場合は、下記 FAQ をご確認ください。

https://www.sparxsystems.jp/LemonTree/faq/faq_lic-price.htm#pur07

※LemonTree の FAQ ですが本製品も同じです。

5. ご利用いただく前に

以下をご確認ください。

- ✓ EAPX/QEAX ファイルが対象です。(QEA ファイルはサポート対象外です。)
- ✓ Codebeamer のユーザに"api_permission"の権限が必要です。
- ✓ インポート・エクスポートは上書きとなります。ラウンドトリップ（双方向）は以下の理由で想定しておりません。
 - ✓ 要求は Codebeamer、アーキテクチャ・ダイアグラムは Enterprise Architect、でそれぞれ管理することを前提
 - ✓ Enterprise Architect、Codebeamer、双方のツールで同じ要素の変更によるコンフリクトの防止
 - ✓ ワークフローの明確化
- ✓ インポート
 - ✓ Codebeamer の要求の削除や、要求間の関係の削除は、Enterprise Architect には反映されません。
※次回以降のバージョンで削除反映に対応予定です。
 - ✓ Codebeamer の要求間の関係の変更は、Enterprise Architect では変更後の関係は追加扱い、変更前の関係はそのまま残ります。
- ✓ エクスポート
 - ✓ Enterprise Architect の要素の削除は、デフォルト設定では Codebeamer には反映されません。
削除検知機能を設定することで、削除要素を Codebeamer の削除専用フォルダに移動させる形で削除が反映されます。
 - ✓ Enterprise Architect の接続の削除・変更は、Codebeamer に反映されます。
 - ✓ Codebeamer の設定によってはエクスポートに時間がかかる場合があります。
FAQ の「[エクスポートに時間がかかる](#)」をご確認ください。

6. サンプルプロジェクトの利用

本製品の動作を知るために、まずはサンプルプロジェクトのご利用をお勧めいたします。

サンプルプロジェクトの利用に必要なデータは、ダウンロードフォルダあるいは CD に格納されており、

主に以下の動作を確認することができます。

- ✓ インポート (Codebeamer → Enterprise Architect)
 - ✓ Codebeamer のトラッカーアイテムを、Enterprise Architect の要求要素として連携
 - ✓ Codebeamer の上位要求と下位要求の関係を、Enterprise Architect の要素間の実現関係として連携
 - ✓ インポート時に Enterprise Architect にない上位要求を Placeholder 要素として仮作成
 - ✓ Placeholder 要素に該当する上位要求のインポートで、Placeholder 要素を要求要素に置き換え

- ✓ エクスポート (Enterprise Architect → Codebeamer)
 - ✓ Enterprise Architect の設計情報 (クラス要素) を、Codebeamer のトラッカーアイテムとして連携
 - ✓ Enterprise Architect の要素間の実現関係のターゲット側を、Codebeamer のトラッカーアイテムの「件名」フィールドに連携

サンプルプロジェクトの構成概要は以下のとおりです。

No.	項目	Codebeamer トラッカー	Enterprise Architect パッケージ	用途
1	上位要求 *便宜的な仮称	顧客要求仕様 *トラッカーアイテムあり	Customer Requirement Specifications *要素なし	インポート用
2	下位要求 *便宜的な仮称	システム要件仕様 *トラッカーアイテムあり	System Requirement Specifications *要素なし	インポート用
3	設計情報	Architecture *トラッカーアイテムなし	System Architecture *要素あり	エクスポート用

サンプルプロジェクトの利用手順につきましては以下をご覧ください。

6.1. Codebeamer でサンプルプロジェクトを作成

以下の手順で Codebeamer にサンプルプロジェクトを作成します。

1. Codebeamer で「プロジェクト」タブを開きます。
2. 「+」をクリックし、新規プロジェクトの作成画面を開きます。
3. 「新しいプロジェクトを作成」を選択します。
4. 「ファイルを添付...」をクリックし、「PowerWindowController.zip」を指定します。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「名前」に任意のプロジェクト名を入力し、「完了」をクリックします。

以上でサンプルプロジェクトの作成は完了です。次章に進んでください。

6.2. LemonTree.Connect codebeamer の接続設定

以下の手順で LemonTree.Connect codebeamer の接続設定を行います。

(LemonTree.Connect codebeamer はインストール済みの前提です。)

1. Enterprise Architect を起動します。
2. 「アドイン・拡張」リボンより、アドインメニュー > LemonTree.Connect Codebeamer > Configure codebeamer Server Settings を選択します。
3. 下記画面で必要事項を入力し、「Test Connection」をクリックして Codebeamer への接続テストを行います。

The screenshot shows the 'codebeamer Authentication' dialog box. It is divided into two main sections. On the left, there is a 'Server list' table with one entry 'test1' checked. Below this table are buttons for 'New', 'Remove', and 'Set as Default'. On the right, there are several input fields: 'codebeamer URL' (with a red annotation 'お客様の Codebeamer URL'), 'codebeamer alias' (with a red annotation '画面左の Server list に表示する名称'), 'Authentication' (set to 'Username and Password'), 'Username' (with a red annotation 'Codebeamer ユーザの Username'), and 'Password' (with a red annotation 'Codebeamer ユーザの Password'). There are 'Test Connection' and 'Save' buttons at the bottom right.

4. 「Connection successful」が表示されましたら正常に接続できていますので、「Save」をクリックして保存し、「×」で画面を閉じます。

以上で Codebeamer への接続設定は完了です。次章に進んでください。

6.3. インポート (Codebeamer → Enterprise Architect)

まず、Codebeamer の下位要求をインポートします。Enterprise Architect で要求要素が作成され、Codebeamer の上位要求に相当する Placeholder 要素も仮作成されます。次に Codebeamer の上位要求をインポートすると、Enterprise Architect の Placeholder 要素が要求要素に置き換わります。手順は以下のとおりです。

1. PowerWindowController.qeax を開きます。
2. インポートの設定を行なうため、モデルブラウザでパッケージ「System Requirement Specifications」を右クリック > アドイン・拡張 > LemonTree.Connect codebeamer > Import from codebeamer を選択します。
3. 下記画面のように赤字 2 箇所を選択します。

codebeamer Configuration for: <https://training.codebeamer.com/>

EA Package: System Requirement Specifications

codebeamer Project: xxxxxxxx 前述で作成した Codebeamer のプロジェクト名

Tracker: System Requirement Specifications System Requirement Specifications

Direction: Import from codebeamer Export to codebeamer Export Diagrams

Mapping Template: [] Load

EA Connector for Trace Link: UML Realization

codebeamer Field for Trace Link: Customer Requirement

Codebeamer Type	UML Type	UML Stereotype
Folder	Package	
Non-functional	Requirement	NonfunctionalRequirement
Functional	Requirement	FunctionalRequirement

<補足> 接続のマッピング
Codebeamer のトラッカーアイテム間の関係と Enterprise Architect の接続をマッピング

codebeamer	Enterprise Architect

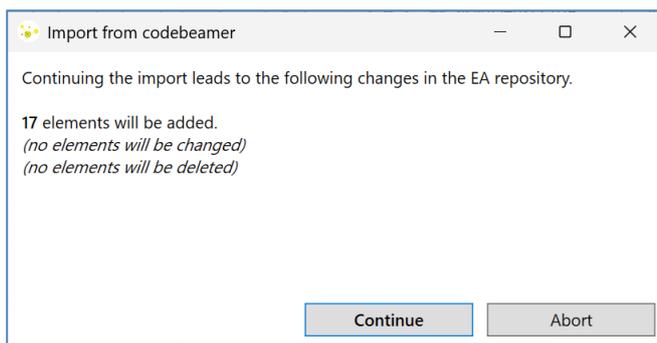
<補足> 種類のマッピング
Codebeamer のトラッカーアイテムの種類と Enterprise Architect の要素の種類をマッピング

<補足> 属性のマッピング
Codebeamer のトラッカーアイテムの項目と Enterprise Architect の属性をマッピング (画面上の種類マッピングを選択してから設定)

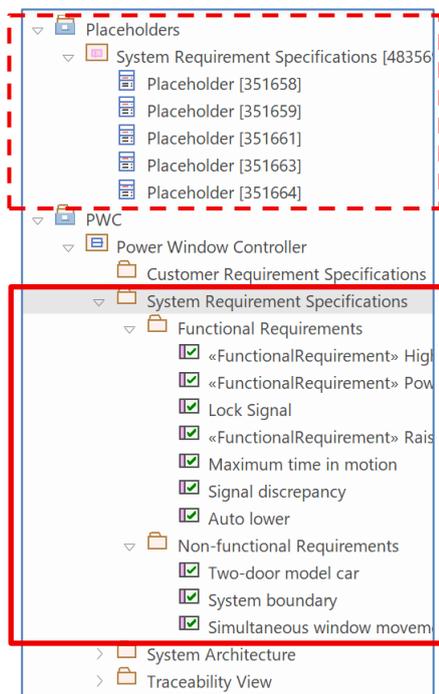
Buttons: Add, Edit, Remove, Cancel, Save

4. 「Save」をクリックして設定を保存します。

5. インポートが開始され、下記のような変更内容を示した事前確認の画面が表示されます。



6. インポートしてよろしければ、「Continue」をクリックすると実際にインポートが行なわれます。結果として、下記画面の**実線枠**のようにパッケージ「System Requirement Specifications」の配下に要求要素が追加されます。

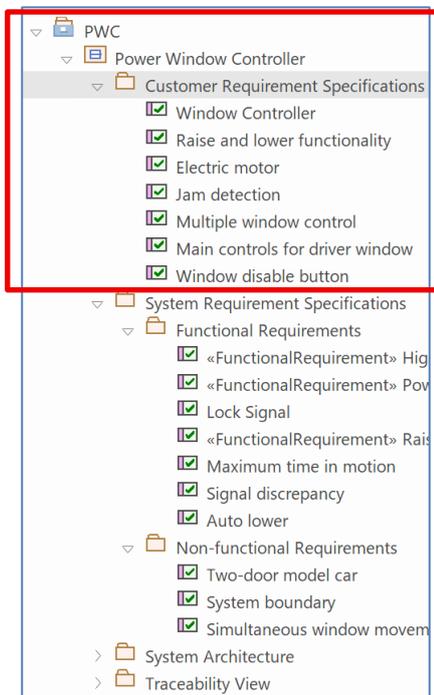


- ※**点線枠**の Placeholder 要素については、インポートした要求の上位要求がないために Enterprise Architect が自動で仮要素を作成し、インポートした下位要求と実現の関係を保持しています。次の手順で上位要求をインポートすると、Placeholder 要素は要求要素に置き換わります。

7. Enterprise Architect にインポートされていない上位要求（Placeholder 要素）をインポートするため、パッケージ「Customer Requirement Specifications」に対して上記手順 2～6 を実施します。

（手順 3 で「Tracker」は「Customer Requirement Specifications」を選択）

結果として、下記画面のように Placeholder 要素は要求要素に置き換わります。



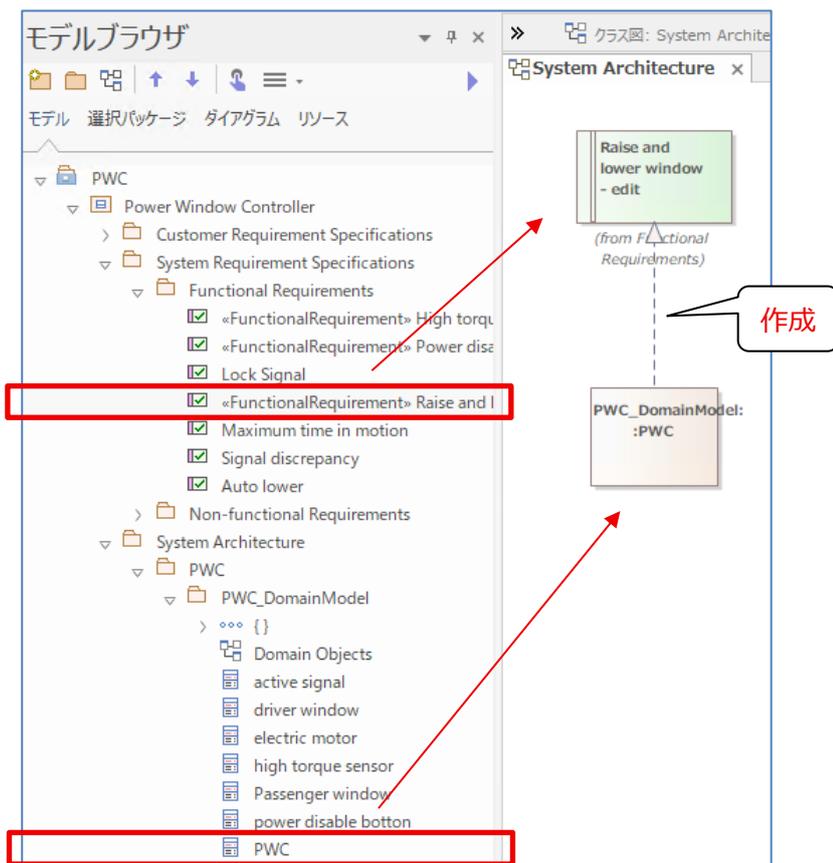
8. モデルブラウザで前述までにインポートした要求をダブルクリックすると、Codebeamer の当該トラッカーアイテムにジャンプします。（ダブルクリック操作以外に、要求を右クリック > アドイン・拡張 > LemonTree.Connect Codebeamer > Open in codebeamer でもジャンプできます。）

以上でインポートの手順は終了です。次章に進んでください。

6.4. エクスポート (Enterprise Architect → Codebeamer)

Enterprise Architect の設計情報 (クラス要素) をエクスポートすると、Codebeamer にトラッカーアイテムが作成されます。手順は以下のとおりです。

1. Enterprise Architect の要素間の実現関係が Codebeamer に反映されることも確認するため、下記のように Enterprise Architect で任意のダイアグラムを作成し、インポートした下位要求の要素と設計情報 (クラス要素) の間に実現関係を作成します。(動作確認のための便宜的な実現関係です。)



2. エクスポートの設定を行なうため、モデルブラウザでパッケージ「System Architecture」を右クリック > アドイン・拡張 > LemonTree.Connect codebeamer > Export to codebeamer を選択します。
3. 下記画面のように赤字 2 箇所を選択します。

codebeamer Configuration for: https://training.codebeamer.com/

EA Package: System Architecture

codebeamer Project: xxxxxxxx 前述で作成した Codebeamer のプロジェクト名

Tracker: Architecture Architecture

Direction: Import from codebeamer Export to codebeamer Export Diagrams

Mapping Template: [] Load

EA Connector for Trace Link: UML Realization

codebeamer Field for Trace Link: Subject

Codebeamer Type	UML Type	UML Stereotype
Folder	Package	
TrackerItem	Class	
TrackerItem	Interface	

codebeamer Enterprise Architect

Buttons: Add, Edit, Remove, Cancel, Save

<補足> ダイアグラムのエクスポート
チェックが有効な場合、当該パッケージ配下の
ダイアグラムが新規トラッカーアイテムの「説明」
フィールドに画像としてエクスポートされる。

4. 「Save」をクリックして設定を保存します。
5. エクスポートが開始され、下記のような変更内容を示した事前確認の画面が表示されます。

Export to codebeamer

Continuing the export leads to the following changes in codebeamer.

24 elements will be added.
(no elements will be changed)
(no elements will be deleted)

9 diagrams will be added.
(no diagrams will be changed)
(no diagrams will be deleted)

Buttons: Continue, Abort

6. エクスポートしてよろしければ、「Continue」をクリックすると実際にエクスポートが行なわれます。
結果として Codebeamer 側で以下となります。
 - ✓ Enterprise Architect の設計情報（クラス要素）に相当するトラッカーアイテムが作成されます。
 - ✓ Enterprise Architect の実現関係のターゲット側が「件名」フィールドに設定されます。
(手順 1 の作成例の場合、トラッカーアイテム「PWC」の「件名」フィールドに「Raise and lower window - edit」が設定されます。)

※エクスポートに時間がかかる場合は、FAQ の「[エクスポートに時間がかかる](#)」をご確認ください。

7. Codebeamer 側で、エクスポートした設計情報（クラス要素）に相当するトラッカーアイテムの「関連付け」に表示されているリンクをクリックすると、Enterprise Architect の当該設計情報（クラス要素）にジャンプします。

以上でエクスポートの手順は終了です。サンプルプロジェクトの利用手順は以上となります。

7. 機能紹介

ここでは 6 章に記載されていない機能をいくつかご紹介します。

7.1. エクスポートで要素の削除検知

エクスポートにおいて、デフォルト設定では Enterprise Architect の要素の削除は Codebeamer に反映されません。ただし、削除検知機能を設定した場合は、削除要素を別フォルダに移動する形で削除が反映されます。

当該機能の特徴は以下のとおりです。

- ✓ 削除要素は Obsolete Items フォルダに移動する
- ✓ 削除要素の名前の先頭に"[OBSOLETE]"が追加される
- ✓ 削除要素のステータスは"Obsolete"になる

Codebeamer の設定方法の概要と詳細につきましては以下のとおりです。

概要：

1. テンプレートを利用してエクスポート用のトラッカーを作成します。
 - ✓ テンプレート用のプロジェクトは下記ページの「LemonTree.Connect_Template_Project.zip」です。
<https://help.lieberlieber.com/codebeamer/Configure-a-codebeamer-Tracker-for-Export-of-EA-Elements.html>
 - ✓ トラッカー作成時にテンプレートとして上記プロジェクトの「Export Tracker Template」を指定します。
2. 作成したトラッカーの配下に「Obsolete Items」フォルダを作成します。
また、作成したフォルダの「my_uml_type」フィールドは「Package」とします。
3. Enterprise Architect のエクスポートの設定で以下のマッピングを追加します。
Codebeamer Type = Folder、UML Type = Package

詳細：

<https://help.lieberlieber.com/codebeamer/Detect-deleted-elements-from-EA-during-Export-to-codebeamer.html>

7.2. 複数の接続をエクスポート

エクスポートにおいて、接続の種類は画面で1つだけ設定できます。複数設定したい場合は、下記ページの「Use multiple Link Mappings」に記載のように、エクスポートしたいパッケージのタグ付き値「configuration」で設定することができます。

<https://help.lieberlieber.com/codebeamer/Mapping-Configuration.html#use-multiple-link-mappings>

参考情報として下記フォーラムもご覧ください。

https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=8044

7.3. 要求配下のダイアグラムをエクスポート

Enterprise Architect で、インポートした要求要素の配下にダイアグラムを作成し、そのダイアグラムを Codebeamer の当該トラッカーアイテムの子トラッカーアイテム、もしくは当該トラッカーアイテム、の「説明」フィールドに画像としてエクスポートすることもできます。詳細につきましては下記ページをご覧ください。

<https://help.lieberlieber.com/codebeamer/Export-of-Diagrams-to-codebeamer.html#attach-diagrams-to-elements-that-originate-from-codebeamer>

8. FAQ

8.1. エクスポート対象となる要素あるいは接続の種類

下記フォーラムをご覧ください。

https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=8060

8.2. エクスポートに時間がかかる

API Throttling 機能が有効な場合、エクスポートに時間がかかる可能性があります。API Throttling 機能を無効にする方法は下記ページをご覧ください。

<https://help.lieberlieber.com/codebeamer/API%20Throttling.html#compatibility-with-older-lemontreeconnect-versions>

8.3. Enterprise Architect で他のアドインの表示が日本語から英語に変わる

下記フォーラムをご覧ください。

https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=8056

8.4. Enterprise Architect のトレーサビリティマップアドインを使用できない

下記フォーラムをご覧ください。

https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=8057

改訂履歴

日付	改訂内容
2025/06/13	・新規作成。